

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2021



所 属： 心理臨床学科

名 前： 岡田洋一

作成日：2021 年 11 月 4 日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ（案）

教員氏名：岡田洋一

所属：人文学部 心理臨床学科 精神保健福祉コース

1. はじめに

大学教員は自らの研究成果と同時に教育にも携わることになる。さらに臨床系の教員は臨床現場やそれを取り巻く地域社会の課題を明確化し解決策などの検討も行なっていく。そしてその取り組みを検証しさらなる解釈と課題解決のための方向性を明らかにしていくことになる。学生は将来社会人になっていくうえで必要なこれらのプロセス、理論を学ぶことになる。この学びを学生が関心を持ち、「腑に落ちる」感覚を持つことができればと考えている。一方通行にならないように学生と対話を重ねていき教員と学生の相互作用により成立する教育の在り方を得るためにも、ティーチング・ポートフォリオは有用な手段だと思われる。

2. 教育の責任

現代社会は混沌としており、学生たちはどう生きたらよいのかを探りながら葛藤の中に生きている。世界と日本の中で日々暮らしている人々の生活の困難や喜びを発見し、学生が自らの可能性を見出し、その可能性を実現しうるマネジメントを行うことができる力を養成することが教育の責任だと考えている。

2.1. 授業科目の担当

2018 年～2020 年度の 3 年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
精神保健福祉論	2021 年度	30 名	
精神科リハビリテーションⅠ	2021 年度	31 名	
精神科リハビリテーションⅡ	2021 年度	29 名	
精神保健福祉援助演習Ⅱ	2021 年度	16 名	
精神保健福祉援助演習Ⅲ	2021 年度	16 名	
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2021 年度	21 名	
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2021 年度	16 名	
精神保健福祉援助実習	2021 年度	16 名	
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2021 年度	16 名	
特別研究	2021 年度	6 名	
卒業研究	2021 年度	4 名	
心理臨床学の基礎	2021 年度	73 名	

■ 主要担当科目

精神保健福祉論Ⅱ

精神科リハビリテーション論Ⅰ、

精神科リハビリテーション論Ⅱ

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

■ 非常勤講師

鹿児島国際大学福祉社会学部 精神保健福祉論Ⅰ、精神保健福祉論Ⅱ

原田学園 医療技術専門学校 言語聴覚療法科 精神科リハビリテーション論

熊本 YMCA 学園 精神保健福祉通信課程 精神保健福祉論

九州医療専門学校 精神保健福祉通信課的 精神保健福祉援助演習

放送大学鹿児島学修センター 卒論研究

- 7月9日鹿児島県社会福祉協議会主催 鹿児島県新任生活保護担当者研修会 「精神保健福祉」講師

- 8月3日熊本県社会福祉協議会相談支援事業所研修会「アルコール依存症と回復」講師

- 8月19日教員免許更新講習会講師「こころの問題と回復支援について考える～ソーシャルワークの視点から～」講師

- 11月30日熊本いのちの電話講習会「アルコール依存症について」講師

2.2. 教育組織運営

障害学生サポート委員会のメンバーとして障害学生にとって学びやすい環境整備、教育的配慮などについて検討し実践してきた。就職支援委員会のメンバーとして就職支援について検討してきた。

3. 教育の理念

少人数教育の特性を生かし、学生に寄り添いながら学生が自らのメンタルヘルスに向き合いつつ人間的成長をはかることができる教育を行う。さらに学生が将来、社会の中で生きづらさをかかえている人たちに対して彼らの人権を擁護しリカバリー支援ができるような力を養成する。

3.1. 理念1

社会で起きているメンタルヘルスの問題を机上だけでなく現場にでかけていき、当事者の生活や支援者たちの活動を実際に見聞きするなどのフィールドワークを通して臨床力を養成する。

3.2. 理念2

メンタルヘルスの課題を人権の視点を持って解釈していくことができる力を養成する。

3.3. 理念3

メンタルヘルスの課題を環境との相互作用で理解し、当事者と環境とに働きかけることができるスキルを養成する。

4. 教育の方法

一方的な講義ではなくアクティブラーニングを活用し、学生との交流を通しながら学びを深めていく。

4.1. 現場での体験を教育に生かす

私の30年以上にわたる臨床経験を学生に伝えながらテキストのコンテンツを深めていく。また、様々なマスコミ情報などを活用する。

4.2. 社会問題とソーシャルアクション

日本の社会の中で、諸外国の中で人々がどのような困難に直面し暮らしているのかを日々、検討していく。そしてこの日本で、あるいは熊本県で、あるいは自分が住んでいるコミュニティでどんな困難があるのかを解釈、分析し、改善していくための行動・ソーシャルアクションの実際を見聞できる機会を作っていく。

4.3 対話力を習得していく

自分の考えを整理し人に説明する力を身に着ける事ができるように対話を重視する。自らを尊重し、他者に敬意を払いながら自らの思いを言語化することを講義の中で意識的に行っていく。

5. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

各学期に実施される授業評価アンケートの数値及び自由記述のコメントを参考にしながら、また直接学生と対話をしながら教育方法などを検討していく。さらに授業改善計画書に記載し大学に報告する。

5.2. 改善努力2

職能団体などの研修会などに参加し今、起きているメンタルヘルスの問題とその対応について迅速に情報収集していく。また、精神障害者や依存症者の当事者組織にも参加しながら回復の道を歩んでいる当事者からの学びを深め学生に伝えていく。

6. 教育の成果・評価

学生からは「熱心に教えてくれる」「社会を見る視点が変わった」「人生について考えるようになった」などの評価を受けている。

7. 今後の教育に関する課題と目標

メンタルヘルスの問題は精神科医療ユーザーだけの問題ではない。日本国民の5人に1人は生涯になんらかの精神科疾患を持つことになり、毎年2万人以上が自殺していると厚労省は報告している。そのような困難な社会状況の中でスピリチュアリティを大切にしこころの健康を回復していくことは社会の課題であり、教育の課題でもあると考えている。こころの病から回復を図っている多くの当事者やそれを支援している精神保健福祉士、心理士の活動に学生が触れつつ人間の尊厳に対する理解を深めていくことを目標としたい。

8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果